

令和7年度中国四国ブロックパラスポーツ指導者研修会が、広島県広島市の広島市心身障害者福祉センターで開催しました。

「光を届ける指導力！視覚障がいスポーツの新たな可能性」をテーマに、現地参加者が26名、オンライン配信参加者28名が参加しました。

11月15日(土)

1日目は、Zoomのオンライン配信と対面による講義形式で実施しました。

講義①

広島文化学園大学人間健康学部スポーツ健康福祉学科准教授の相川貴裕様に「視覚障がい概論～障がいを学ぶ～」の講義をしていただきました。



講義②

「視覚障がい者へのスポーツの推進を共に考える～視覚障がい者アスリートとのQ&A～」視覚障がい者アスリート毛利マサオ様を講師に、RCC中国放送の石橋様をファシリテーターに招き、対談形式での発表をしていただきました。



指導部会実践報告会

①「広島県の障がい者スポーツ推進の取組み ～A-pfeile 広島から始まる私の活動～」

A-pfeile 広島 AFC の津川基氏に



②「島根県の障がい者スポーツ推進の取組み ～共に支え合うパラスポーツ 当事者だからできるサポート～」

島根県パラスポーツ指導者協議会の安井愛美氏に

それぞれ発表していただきました。



11月16日(日)

2日目は、実技を実施しました。

「フロアバレーボール ～視覚障がいの方と共にプレイできるスポーツを学ぶ～」

フロアバレーボールチーム シトラス広島の選手、チームスタッフの方々と一緒にフロアバレーボールを実施しました。

また2日間の振り返りとして、視覚障がい者のスポーツ活動の留意点を先天性・後天性の全盲・弱視にそれぞれの設定に分けて、グループワークを行いました。



参加者の様子から、「視覚障がいの指導に対し、情報量の大切さ、共通言語を決めたり、作ったりすることの大切さ」について、理解を深めることができた様子がグループワークの発表の内容から伺えることができました。

次年度は島根県でブロック研修会を予定しております。

